

S Y Dかわらばん

＜最新活動情報 No.161＞ 2022年3月22日号

かわらばん特別企画「修養団と私」

2月号よりスタートいたしました「修養団と私」。毎月、組織間交流や運動推進の原動力として、各地で活動されている方々に特別寄稿いただいております。



修養団と私「縁・絆」

鹿児島県連合会 副会長 袴田 哲朗

私と修養団との出会いは、昭和43年2月21日に発生した「えびの吉松」地震。高校生による復旧作業者の募集でした。

校長先生より「学生講習会があるので参加せんね」と声をかけられ、後日知った事だが、修養団加治木支部の島津様（島津家末裔）、出木場さん、渡辺さんが、愛汗学生講習会への参加者募集のために加治木の3つの高校の学校長訪問をされ、おかげ様で縁が繋がった。

講習会への参加を両親に話すと、2人で顔を見合わせ「よか講習会じゃが」と喜んでくれ、安心して参加出来た。後日聞くと父母共に旧制加治木中、加治木女学校当時、同じ講堂で受講していた。他にも修養団のことを話してくれ、久しぶりの親子会話となった思い出がある。

当時、県下4～5会場で、各会場約40名の参加があり、その中で会場をはしご参加した数名がその後の人生の友となっている。又、人生の師、中山靖雄先生との出会い、有吉・近藤先生とのご縁も繋がった。



第9回愛汗学生講習会 加治木町 飛電閣
昭和43年8月・3日・4日・5日

【2列目、向って右から4番目が本人。左から3番目は中山靖雄講師】
受講中、修養団が蓮沼主幹の師範学校寄宿舎の掃除から始まったことを聞いたとき、中学校1年の体験が思い出された。

入学して一週間、新入学生第1号で職員室に立たされ、多くの先生より説教。反省として1人で廊下1か所100回拭きをしたら、その部分が白くなった

（当時の廊下は板）。翌日も繰り返し拭くと板1枚分が白くなった。担任から、「きれいになってきたね」「お父さんから蓮沼先生の雑巾がけの話聞いた？」と質問され当時は知らなかったが、講話を通して当時の実体験と繋がった。（その後、仲間の協力で、1カ月で教室の前廊下は全て白くなった。）

講習会の途中、小さい頃、おじが教えてくれた「山より高き父の恩」「海より深き母の恩」、両親先祖の感謝の気持ち、そして「明魂」、物事の考え方の基準、明るく前向きに考える内容の講話を一生懸命に聞き、うなずきながら涙が出た。そしてそれはその後の自分の人生の礎となっていく。

縁は続き、高校の修学旅行で向かった東京での宿泊先は「東京青年文化会館」。しかし、40度の発熱で楽しみにしていた「東芝科学館」には行けず、宿でおばさんに頭を冷やしてもらい何回も氷を取り替えてもらったことが一番の思い出となった。これも後で知ったことだが「東京青年文化会館」と修養団の深い関係にビックリ。就職のため東芝の面接試験に行くと、隣は修学旅行で行けなかった「東芝科学館」。これにもビックリ。試験で聞かれたことは「ベトナム戦争はどちらが悪い？」「修養団活動を説明してください。」の2問だけ。他の人は10回以上の質問。「ダメかな？」と思ったが、合格した。新入社員教育の考え方は「総親和・総努力」。当時の土光社長が修養団の理事でまたビックリ。その後、地元小さな町で東芝の電器店を開店したが、出店時、大津研修センターで受けた加古講師の指導は「愛・汗・献」の話で、店の社訓も「愛・汗・献」とした。

新婚旅行途中、福岡中州、夕方一番の混雑の中、中山先生とすれ違う。「中山先生！」「オー。袴田」同時に振り向く。先生は、ブラジルの仲間を案内中、10分ほどの立話で別れたが十数年ぶりの再会、待ち合わせをしても会えない場所で「すごい縁・絆を感じた。

その後長男は中2の時、伊勢の少年少女講習会に1人で参加し、大きく成長して帰ってきた。次男は福島の実業、次女はフィリピンの国際交流業

へ参加。修養団100・110周年記念大会には家族全員参加(5名)その後も社員教育として、伊勢講習会(現・みがく講習会)に参加させている。

修養団116周年、我が修養団歴53年、いろいろなご縁に導かれ、自分史のようになったが、ふしぎな縁の繋がり、縁と縁が繋がって道となり、道と道が繋がって人生となってきた。修養団の多くの人々との出会い、ご縁が益々繋がって子、孫の時代へと縁繋ぎ活動!! 永遠に!! 感謝

袴田 哲朗さんへ《質問コーナー》

- ① 好きな言葉 → 「明魂・愛・汗・献」
- ② 私のおすすめの本
→ 「人生ガイド研心」(困ったとき・心を決める時読みます)
- ③ 好きな食べ物
→ 「果物」(最近、糖カット中の為控え気味です)
- ④ 趣味 → 「孫と遊ぶこと」(遊んでもらっているかも)
- ⑤ 最近ハマっていること、または始めようとしていること
→ 「YouTubeによる情報収集」(フェイク情報かどうかの判断)
- ⑥ 夢(子どもの頃と現在)
→ 小さな町の電器屋さんを楽しんでいます。東芝時代の半導体をもう少しやりたかったです。(CMOS, NAND, PTR, etc...)
- ⑦ 会員の皆様へ一言メッセージ
→ コロナ禍での「子ども自然体験キャンプ」2回の中止、子ども・孫への夢、縁つなぎ「キャンプ」の参加者募集を頑張りましょう。

➡ご感想やメッセージなどありましたら、ぜひSYD社会教育部までご連絡下さい。

主催事業・活動等

《 》内は派遣者

報告

3/11…第8回「オンライン青年ゼミナール」“未来のわくわくをデザインしていく～故郷、屋久島から世界へ～” 15人 《福元豪士》



NPO法人HUB&LABO Yakushima代表理事の福元さん。世界遺産登録から30周年を迎えた屋久島で、息子からもらった言葉「屋久島から地球が見える」を胸に、「次の30年もみんなが持続可能で豊かに生きることができる島」にすることを目標に活動している。

講演では、環境系学生たちと今後の未来を考える「未来塾」について、また“島に生きる子どもたちが住みたい屋久島を創造する”などを目的に教育委員会や企業などと連携・協力した経験をお話いただいた。幸せの種まきとは?の質問に、「マインドフルネス」「今この瞬間を楽しむこと」と答えてくれた。



3/13…第3回「Zoomでオンライン“愛と汗”幸せの種まき講演会」「生きる役割」27人《保坂正志》



本団講師による講演会の第3回目として、保坂正志講師がブラジル出講の体験を踏まえ、故:中山

靖雄講師の言葉を引用し“生きる役割”について講演。会員組織の方を中心に27人が聴講した。講演後の情報交換会には10人が参加し親睦を深めた。

★みがく特別講習会〔三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター〕《武田数宏、寺岡賢、山崎政弘、中山貴生、斎田聖生、竹本英美、亀田希奈里》

2/19～20…第2回 21人

2/26～27…第3回 15人

★みがく講習会〔三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター〕《武田数宏、寺岡賢、山崎政弘、中山貴生、谷野渉、斎田聖生、竹本英美、亀田希奈里》

3/1～4…第1218回 11人





みがく特別講習会は、2月の土日に予定されていた全日程が終了。実際にご参加いただいた人数以上に諸事情で参加できなかった多くの方々の思いも感じながらの講習会であった。なお、昨年に続きお越しいただけなかった方のため、今年は7月に「夏のみがく特別講習会」を実施予定。

また、みがく講習会では特別水行訓練コースを実施し、多い方は6回の水行を体験。少人数ながら活気に溢れた会となった。



【幸せの種まきキャンペーン《出前講座》】

《山口千恵子、谷野渉、増田航介》

報 告

3/ 9 北海道・札幌市立藻岩中学校 150 人

予 定

3/20 岐阜県・修養団岐阜県連合会青年部
ともしび会

予 定

3/26～30…第2回「子ども自然体験スキーキャンプ」[福島県北塩原村・ばんだいふれあいびあほか]《高橋源一郎、板倉和也、谷野渉、増田航介》

3/26～27…「WAKU×2ボランティアリーダー研修会」(北九州)[福岡県北九州市・北九州市立玄海青年の家] 《保坂正志》

3/26～27…「WAKU×2ボランティアリーダー研修会」(愛知)[愛知県豊田市・公益財団法人オイスカ中部日本研修センター] 《中山貴生》

4/5～8…第1219回「みがく講習会」[三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター]《武田数宏、寺岡賢、山崎政弘、中山貴生、斎田聖生、竹本英美、亀田希奈里》

4/22…「オンライン青年ボランティアゼミナール」
《東京家政大学学生》

令和3年度第16回「SYDボランティア奨励賞」優秀賞を受賞した「東京家政大学ヒューマンライフ支援センター地域小学校との食育連携プロジェクト」の学生たちが講師。小学校の出張授業を行っていたが、コロナ禍となり黙食中に見られる映像を作成するなど、工夫してボランティア活動が続けている。

会員組織の主な動き

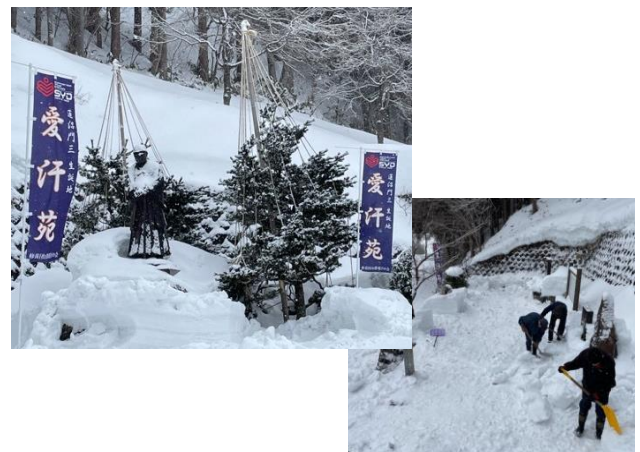
報 告

2/22…修養団山都愛汗の会「愛汗苑除雪作業」5人[福島県喜多方市・愛汗苑]



蓮沼門三初代主幹の誕生日(2月22日)に合わせ、生誕地「愛汗苑」の除雪作業を実施。前日は高橋源一郎副会長が前もって除雪機にて敷砂利部分を除雪。当日は粉雪が降っており、早朝除雪準備では、140年前の朝の様かと思いを馳せ、手作業で雪払いをした。

《発信・小澤清一》



2/25～3/1…修養団沖縄がじまる会、SYDボランティア友の会「第34回沖縄戦遺骨収集ボランティア」〔山雨の塔下壕、真栄平地区岩山壕ほか〕

SYDボランティア友の会は、糸満市真栄平地区等で34回目の沖縄戦遺骨収容

活動を行い、無事終了した。新型コロナウイルスの影響で参加者は9名であったが、激戦の地にてご奉仕の汗を流し、敬意と感謝の念(愛)をもって慰霊祭を斎行した。〈発信・松谷毅〉



情報あれこれ

★第16回SYDボランティア奨励賞 受賞者★

受賞者より喜びの写真が届きました！

(一部掲載)

2月11日に東京渋谷区・SYDホールで行う予定となっていた贈呈式は、新型コロナウイルス感染対策のため動画配信となり、受賞者には表彰楯と・副賞などが郵送されました。

※受賞者詳細は前月号掲載

「動画贈呈式」は、左記のQRコード(YouTube)、SYDホームページ(先頭ページ)からご覧いただけます。



文部科学大臣賞

唐津南高校

虹の松原プロジェクトチーム (佐賀県)

★美しい「虹の松原」を守り次の世代に繋ぐ活動



優秀賞

【小・中学生の部】

姫城中学校 姫ボラ (宮崎県)

★地域の方々とも協力し、様々なボランティア活動に取り組む



【高校生の部】

群馬県立大泉高等学校 植物バイオ研究部

(群馬県)

★増殖技術地域連帯で美しい湿原を保全



特別賞

山鹿市立鹿北中学校 生徒会 (熊本県)

★「あつまれ芸術の森in鹿北」など多くのイベントを企画・実行し、地域を盛り上げる



〈発行・連絡先〉

SYD(公益財団法人修養団) 社会教育部
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2
☎03(3405)5441 FAX03(3405)5424
E-mail: info@syd.or.jp
ホームページ: https://syd.or.jp/

SYD

検索